

宮城県林業普及活動情報

2025. 9月号 No. 208

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～8

- 林業教室実地研修 (大河原地方振興事務所)
- 令和7年度仙南地域素材生産・流通連絡会議の開催 (大河原地方振興事務所)
- 経営管理制度集積計画作成支援 (大河原地方振興事務所)
- 地域協働型スマート林業教育プログラムに関する実施内容打合せ (大河原地方振興事務所)
- しばた曼珠沙華まつりでの全国育樹祭PR (大河原地方振興事務所)
- 原木しいたけ生産者等による打合せ会を開催 (仙台地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の推進に向けた伴走支援を実施 (仙台地方振興事務所)
- ハタケシメジ伏せ込み指導 (北部地方振興事務所)
- 森林病虫害対策会議 (北部地方振興事務所)
- 森林経営管理制度伴走型支援 (北部地方振興事務所)
- 「ハタケシメジ栽培体験」への支援 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「石巻圏域森林経営管理制度推進会議」の開催 (東部地方振興事務所)
- 登米市森林管理協議会年次監査の対応支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「林業DX(トレーサビリティ)システム研修」の支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 木工工作コンクール応募作品がリアス・アーク美術館に展示(気仙沼地方振興事務所)
- 東北・北海道ブロック「令和7年度林業グループコンクール及び第62回林業グループ意見交換会」への支援 (林業技術総合センター)

林業教室実地研修

大河原地方振興事務所

【4日(木)】

当管内の林業教室受講生に対し、森林調査に必要な基礎知識として、コンパス測量及びGNSS測量の実習を行いました。

測量の基礎知識について説明したあと、コンパス及びGNSSを使って測量し、実際に測量したデータを使って製図及び求積を行ったことで、測量の基礎知識を学んでもらうことができました。

今後も、林業教室受講者に対し引き続き情報提供や技術の習得を支援していきます。



【コンパス測量説明】

令和7年度仙南地域素材生産・流通連絡会議の開催

大河原地方振興事務所

【8日(月)】

仙南地域の素材供給者と需要者の情報共有を図り、地域材の利用を促進するため、管内の森林組合や民間の林業関係事業体を交えて意見交換等を行う仙南地域素材生産・流通連絡会議を実施しました。会議では管内の素材生産者と需要者から令和6年度の素材生産と需要量の実績や令和7年度の計画を取りまとめた結果について説明し、現状の素材生産や流通、人材確保の状況等について参加者で意見交換を行いました。また、宮城県森林組合連合会から本年4月に施工された改正クリーンウッド法に関する説明や現在の木材市況について、林業振興課からは広葉樹の生産・流通に関する補助事業について情報提供がありました。

引き続き、管内を中心とした素材生産や流通状況の把握を行い、必要とされる支援の実施に努めていきます。



【会議の様子】

経営管理制度集積計画作成支援

大河原地方振興事務所

【9日(火)】

白石市で新しく集積計画案を作成するにあたって、その準備の一環として現地の植生状況を確認するため、ドローンによる写真撮影の支援を行いました。

写真撮影の結果、1箇所では森林簿よりスギ林分の面積が小さいことが判明したため、この区域は集積計画案から除くことになりました。

引き続き、関係機関と連携を図りながら助言・指導を行っていきます。



【ドローン写真撮影】

地域協働型スマート林業教育プログラムに関する実施内容打合せ

大河原地方振興事務所

【11日(木)】

林野庁の委託事業である「地域協働型スマート林業教育プログラム」に関連し、実施主体である大河原産業高校と協力事業体として依頼している宮城十條林産株式会社を交えて、教育プログラムの実施内容について打合せを行いました。同校の演習林の管理をデジタル化するための手法について調整を行い、GNSSによる演習林の周囲測量やそれに基づくドローンでの林班の測量の実施に向けて取り組んで行くこととし、林業関係科の生徒に向けて、各測量に関する実習を行っていくこととしました。



【打合せの様子】

しばた曼珠沙華まつりでの全国育樹祭PR

大河原地方振興事務所

【27日(土)】

全国育樹祭記念行事であるしばた曼珠沙華まつりにおいて木製カプセルトイを用いて第48回全国育樹祭開催のPRを約270名に対して行いました。

育樹祭一週間前の実施ということもあり、関心は高くPR効果があったと思われます。



【育樹祭PR】

原木しいたけ生産者等による打合せ会を開催

仙台地方振興事務所

【11日(木)】

管内の原木しいたけ生産者及び市町村担当者による打合せ会を開催し、原木しいたけの出荷制限ロット解除の状況や県内産特用林産物の出荷制限状況について情報提供を行いました。生産者の方々から生産状況などについて情報共有をいただいたほか、秋頃に開催を予定しているPRイベントについても打合せを行いました。また、県庁林業振興課から、県内産原木の利用再開に向けた調査等の取組状況、補助事業の動向等について情報提供がありました。

今後も市町村等の関係機関と連携を図りながら、原木しいたけ生産者の活動を支援していきます。



【生産者等による打合せの様子】

森林経営管理制度の推進に向けた伴走支援を実施

仙台地方振興事務所

【18日(木)、19日(金)】

山元町では伴走支援により仕様書の指導を行った意向調査業務委託が契約締結され、委託業者との初回打合せに同席しました。意向調査の進め方についてスケジュールを共有した他、必要な調整項目の整理を支援し、町の職員の理解が得られました。

利府町では昨年度に集積計画素案を策定後に担当職員の人事異動があり、町から実施方針作成の指導について依頼があったことから打合せを行いました。町内で意向調査が必要な森林の絞込を森林クラウドシステムを用いて作業し、森林簿抽出、対象森林のマップ化のノウハウを伝えるとともに、実施方針策定にあたって考え方の整理を支援し町の職員の理解が得られました。



【山元町での打合せの状況】

ハタケシメジ伏せ込み指導

北部地方振興事務所

【24日(水)】

当管内では、ハタケシメジ生産において、数名の生産者からの協力により産地直売所へ出荷販売しています。

そのうち、1名の方へ新品種であるLD3号の試験栽培を依頼しており、2シーズン目となりました。

昨年の経験を活かし、伏せ込みは手際よく進めることが出来、1時間で完了しました。今後、温度及び湿度管理の他、発生重量等のデータを記録するため、普及員が訪問して状況を観察していきます。



【ハタケシメジ伏せ込み】

森林病虫害対策会議

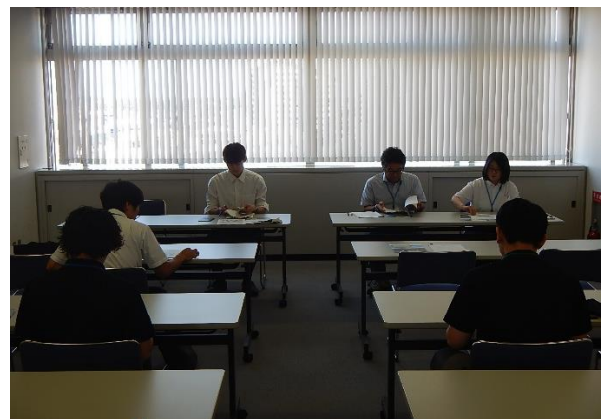
北部地方振興事務所

【26日(金)】

松くい虫・ナラ枯れ被害等の防除を適切に実施するにあたって、必要な知識を伝達するために管内の町林務担当者向けに勉強会を開催しました。

森林病虫害等の被害拡大を防止するためには、まず各被害のメカニズムを理解しておくとともに、事業予算を確保することや適正な時期に調査や事業を実施することが重要になります。

今回の対策会議により、今後の松くい虫等被害対策が円滑に進むよう担当者の意識を高めることができました。



【林務担当者への説明】

森林経営管理制度伴走型支援

北部地方振興事務所

【29日(月)】

令和7年度に実施している森林経営管理制度伴走型支援により、意向調査実施林分を町から林業事業体へ斡旋することを目的にマッチングを行いました。

事業体が森林経営計画による施業を行うために考慮すべき条件を把握し、現地を確認したのち、斡旋の是非を判断することとなりました。

この結果を踏まえ、継続して森林経営管理制度の推進に取り組めます。



【打合せの様子】

「ハタケシメジ栽培体験」への支援

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【11日(木)】

栗原市立花山小学校は、例年、総合学習として栗原市のきのこ生産及びハタケシメジの栽培について学んでおり、今年も花山小自然活動支援委員会メンバーの指導により、校庭においてハタケシメジ菌床ブロックを用いた野外栽培実習を行いました。

当日は、県内の菌床生産者から購入したハタケシメジ菌床ブロック12個を、6名の児童が3班に分かれてプランターに埋め込み、隙間に赤玉土を詰め、藁を被せ、散水を行い、遮光ネットで覆い、作業が完了しました。

今後は、定期的な散水など、児童が適正な管理を行い、約1ヶ月半後に収穫されるハタケシメジは、学校祭で販売することとなっています。



【一つ一つ丁寧に作業をしました】

「石巻圏域森林経営管理制度推進会議」の開催

東部地方振興事務所

【1日(月)】

管内市町の森林経営管理制度を推進するため、標記会議を開催しました。

会議では、管内市町の取組状況の報告、宮城県市町村森林経営管理サポートセンターや当事務所からの情報提供、意見交換などを行いました。

当管内の各市町は、取組を行うに当たり、うまくサイクルができており、大きな懸案事項もなく、他の市町との意見交換の要望もありませんでした。

圏域推進会議の開催時期や回数について、時期は早いほうがよいという意見や、7月～8月がよいのでは、という意見もありました。本件については、改めて意見を伺うこととしました。

毎回似たような話で新鮮味がないという意見もあり、圏域推進会議の進め方について、検討する必要があると考えられました。



【会議の様子】

登米市森林管理協議会年次監査の対応支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【2日(火)、3日(水)】

FSC-FM森林認証を取得している登米市森林管理協議会の年次監査が実施され、当所はオブザーバーとして現地審査及び書類審査の対応を支援しました。

同協議会のFSC-FM認証取得は2期(5年/期)4年目となり、来年度が3期目の更新審査を迎えることから、現在の指摘事項を来年度までに改善できるよう、検討を進めています。



【FSC森林認証年次監査（現地審査）】



【FSC森林認証年次監査（書類審査）】

「林業DX（トレーサビリティ）システム研修」の支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【29日(月)】

登米市森林管理協議会は、FSC認証材の合板向け原木流通を電子化し、信頼性の高い取引として確立するため、宮城十條林産㈱ほかが開発を進める林業DXシステム(試作)の導入を目指し、デモンストレーションに参加しました。

取組では、クリーンウッド法に対応する合法性証明と現場画像の位置情報により森林の生育(更新)状況まで随時確認できるようになり、FSC認証森林の意義や効果を情報発信するシステムとして運用することを目指しています。



【システム研修】

木工工作コンクール応募作品がリアス・アーク美術館に展示

気仙沼地方振興事務所

【5日(金)、10日(水)、11日(木)、19日(金)】

第18回みやぎ児童生徒「木工工作」コンクールは、小中学校生徒に木工工作を通じて、森林や木材に親しんでもらい、次世代を担う世代の社会理解と健全育成を目的に、毎年度開催されております。

なお、気仙沼管内では昨年に引き続き、応募作品の全てを、リアス・アーク美術館の御協力の下に、コモンホール（エントランスホール）に展示させていただき、284人の来場者が訪れました。【展示期間 9/11～9/19】

今年度は、応募方法が学校を経由しない電子申請に変更となり、応募件数の減少が懸念されましたが、計24件（3小学校）と昨年を超える応募数となりました。これはリアス・アーク美術館への展示など、少なからずモチベーションアップにつながったと思われるため、今後も小中学校生徒が更に応募したくなるような取組を検討して参ります。



【リアス・アーク美術館展示状況】



【小学校低学年の部応募作品】

東北・北海道ブロック「令和7年度林業グループコンクール及び第62回林業グループ意見交換会」への支援

林業技術総合センター

【2日(火)～3日(水)】

標記コンクールに当県代表として仙南フォレストクラブが表彰されるほか、他道県の活動状況ほかを情報収集するため、標記コンクールに随行しました。

各道県の発表は、スマホに不慣れな森林所有者への支援、CLTの普及、ブランドスギの周知、地域の木育推進、林業研究グループの世代交代の状況等、盛りだくさんの内容でした。コンクールの結果は、1席 北海道 池田町林業グループ、2席 宮城県 仙南フォレストクラブとなりました。また、北海道森林管理局から、漫画を活用した林業振興について講演がありました。

翌日は、野球場(エスコフィールド)における木材の活用状況を現地視察しました。



【表彰される仙南フォレストクラブ】